

白山麓中小企業景況調査報告書

平成 29 年 7 月～9 月実績

本アンケート調査は、白山商工会の経営発達支援計画*¹の一環として行っており、白山麓の経済動向の実態把握、小規模事業者等に対する各種支援の基礎資料といたします。なお、ご回答いただいた内容は、すべて統計的に処理して集計値を公開しておりますが、個々の事業所を特定できるデータの公開はしないこととしております。

* 1 : 「経営発達支援計画」について

人口減少・少子高齢化など社会情勢の変化により地域経済が転換期を迎えている中、地域小規模事業者の活力向上及びその持続的発展を目標に、平成 26 年 6 月に「小規模事業者振興基本法」が成立し、同年 9 月から施行されています。これに基づき本会でも「経営発達支援計画」を策定、平成 29 年 3 月に経済産業大臣の認定を受け、管内小規模事業者の支援を積極的に行っています。



白山商工会

《調査概要》

(1) 対象地区

白山商工会管内

(河内地区、吉野谷地区、鳥越地区、尾口地区、白峰地区)

(2) 調査期間

平成 29 年 7 月～9 月期 (調査時期：8 月下旬)

(3) 調査方法

商工会の経営指導員による巡回ヒヤリング調査

(4) 対象企業数

30 社・・・回答企業数：30 社 (回答率：100%)

売上規模	総計	
	人数	構成比
～100万円	7	23.3%
100～500万円	10	33.3%
500～1000万円	8	26.7%
1000～2000万円	3	10.0%
2000万円～	2	6.7%
無回答	0	0.0%
合計	30	100.0%

(5) D I とは：

D I とある記号は、調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から、減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値を指す指標です。

(6) 本調査報告書の作成日

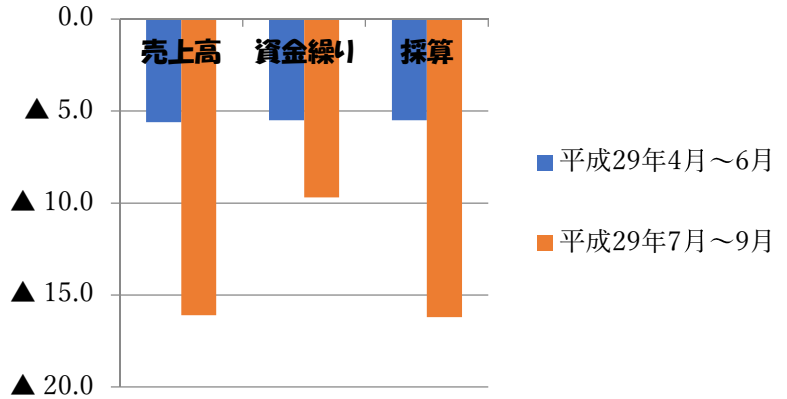
平成 29 年 10 月 18 日

調査1. 白山商工会管内の「景況」の動向

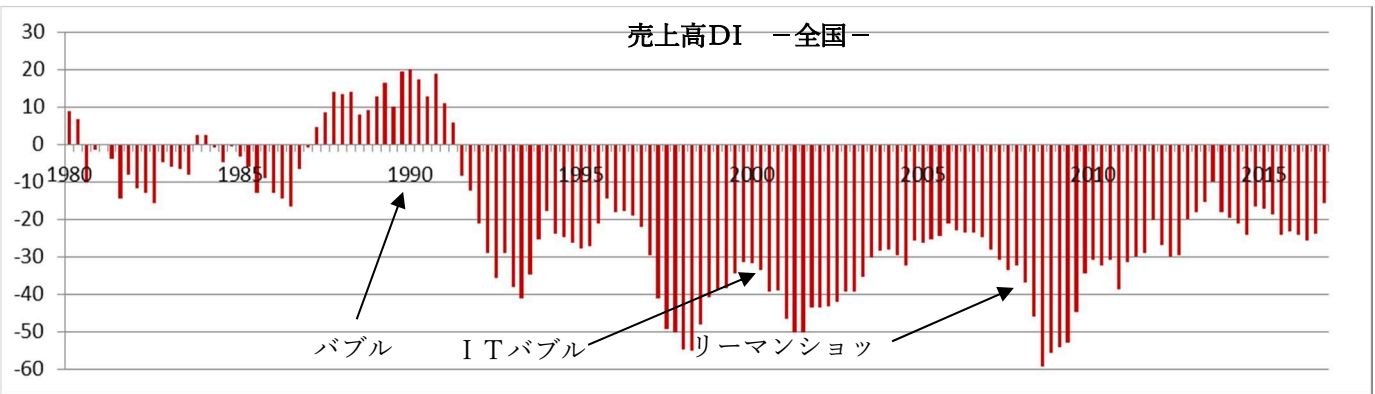
(1) 「売上高・資金繰り・採算 DI」の動向（前年同期比）

白山商工会管内の実績値は、売上高・資金繰り・採算ともに直近期（平成 29 年 4 月～6 月期）を大幅に下回った。

なお、直近期は全国の売上高 DI と比較すると良好であったが、今期は全国値と同等の値に落ち着くという結果となった。

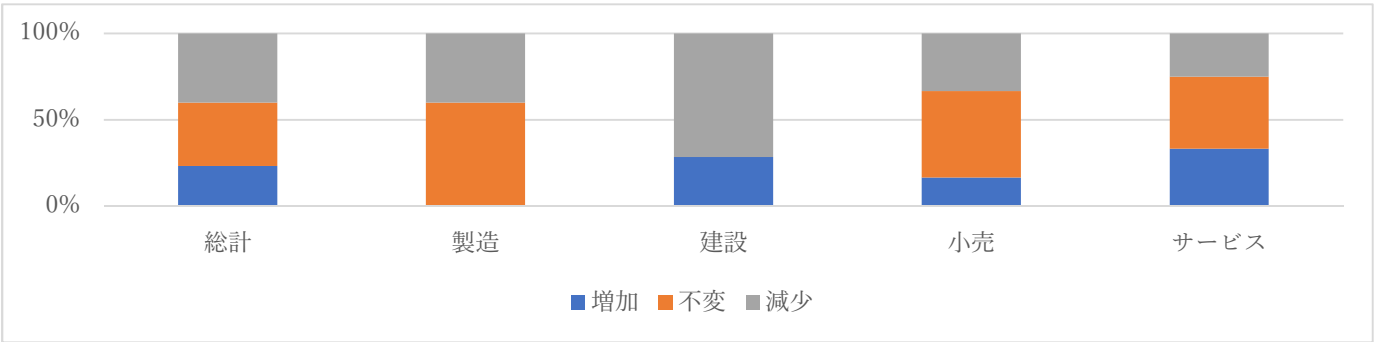


【全国の売上高 DI の推移（前年同期比）】



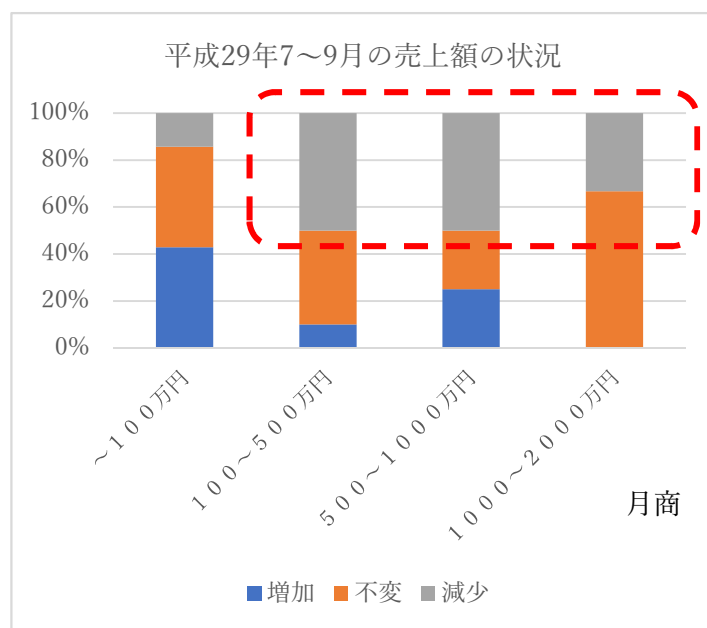
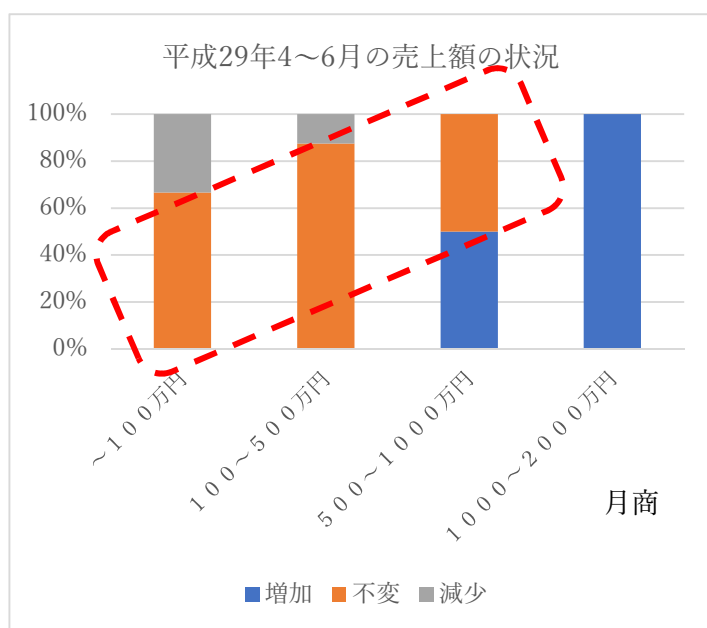
(2) 「業種別売上高」の動向（前年同期比）

選択項目	総計		製造		建設		小売		サービス	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
増加	7	23.3%	0	0.0%	2	28.6%	1	16.7%	4	33.3%
不変	11	36.7%	3	60.0%	0	0.0%	3	50.0%	5	41.7%
減少	12	40.0%	2	40.0%	5	71.4%	2	33.3%	3	25.0%
合計	30	100.0%	5	100.0%	7	100.0%	6	100.0%	12	100.0%



製造業（▲40.0）と建設業（▲71.4）の DI が悪い。また、平成 29 年度 7 月～9 月期の売上高の状況は、直近期（平成 29 年 4 月～6 月期）と比較すると、すべての業種で DI が悪化している。

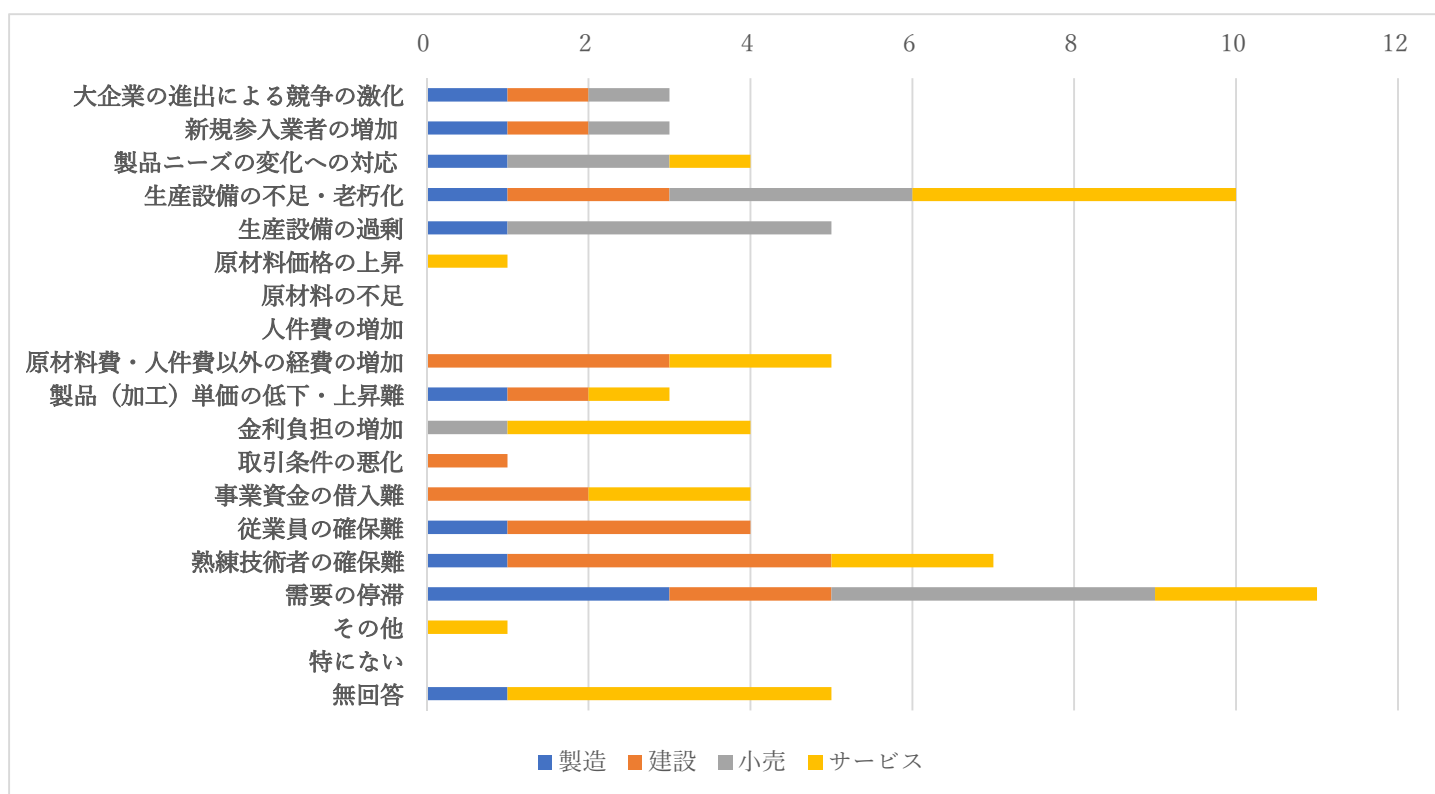
(3) 「売上規模別売上高」の動向（前年同期比）



直近期（平成29年4月～6月期）では、売上規模が小さいほど業績が悪かった。しかし、平成29年7月～9月期では一転し、売上規模が月商100万円未満は良化、それ以外は悪化している。

調査2. 白山商工会管内の「直面している経営課題」の動向

(1) 「直面している経営課題」の動向



直面している経営課題は、設備の不足・老朽化と需要の停滞が突出して多く、直近期（平成29年4月～6月期）も同様であった。

【全国の「直面している経営課題」の動向（中小機構のレポート 抜粋）】

	1位	2位	3位	4位	5位
製造業	需要の停滞 24.2 %	製品ニーズの変化への対応 12.1 %	生産設備の不足・老朽化 11.2 %	従業員の確保難 10.8 %	製品(加工)単価の低下、上昇難 8.9 %
建設業	官公需要の停滞 17.9 %	従業員の確保難 15.5 %	民間需要の停滞 12.5 %	請負単価の低下、上昇難 10.6 %	熟練技術者の確保難 10.6 %
小売業	大中小型店の進出による競争の激化 18.8 %	需要の停滞 17.9 %	購買力の他地域への流出 16.2 %	消費者ニーズの変化への対応 15.7 %	同業店の進出 5 %
サービス業	利用者ニーズの変化への対応 27.2 %	需要の停滞 15.1 %	従業員の確保難 14.2 %	店舗施設の狭隘(狭い)・老朽化 13.8 %	大企業の進出による競争の激化 11.9 %

白山商工会管内で突出して多い設備の不足・老朽化は、全国のデータ（直近期の商工会連合会調査）ではどの業種も上位の一位・二位に入っていないことから、白山商工会管内の小規模事業者特有の課題といえる。もう一方の需要の停滞に関しては、全国同様に当地も上位の課題となっている。

（２）「直面している経営課題」に関する回答者のコメント（自由回答）

コメント	(業種、売上規模、売上前年同期比)
外国より(東南アジア)安い製品を輸入しているので、それに対抗する品質の良い製品を製織しなければならない。	(製造、1000～2000万円、不変)
引き合いがあるものの大工の不足により現場がこなせず、お客様に待っていただいている状況。来年まで既に仕事が埋まっているが、予定どおり進んでいくか、とても心配な状況である。	(建設、500～1000万円、増加)
後継者がいなく、従業員も高齢化している。業界的に人材不足。仕事量のわりに業者が多い。	(建設、100～500万円、減少)
林業への新規参入で仕事量の増加や売上高の増加は期待できるが、それに伴う人材の確保や設備の充実が今後の課題になると思う。	(建設、500～1000万円、増加)
地域住民の減少	(小売、100～500万円、減少)
今年の夏は白山開山1300年ということもあり、登山客が例年より多く思えた。その方たちの来店数が多かったようだが、来年はどうかかわからない。	(小売、100～500万円、不変)
白山登山客が多い。仕入単価が上昇しているが、価格に反映できない。従業員(アルバイト)の確保が難しくなっている(時給を上げないといけない。)去年より週休2日に増加させて、粗利が改善した。	(サービス、100～500万円、不変)
4月が休業のため。	(サービス、500～1000万円、減少)
白山開業1300年事業の効果が誘客につながっている。	(サービス、～100万円、増加)

調査3. 白山商工会管内の「新規設備投資」の動向

	構成比
実施した	13.3 %
実施していない	86.7 %
無回答	0.0 %
計	100.0 %

平成29年7～9月に新規設備投資を実施した割合(13.3%)は、全国のデータ(直近期の商工会連合会調査)と同等であった。

内訳は、車両運搬具を挙げる割合が57.1%と新規設備投資実施者の半数を超えていた。なお、生産設備を挙げる事業者はいなかった。

